

東京/中日新聞 07/2/18

ロングセラー

単一民族神話の起源
小島英二著



日本人は自分たちを「単一民族」と思いがちだ。この国にはアイヌ民族も在日の人々もいるし、決して民族的に単一ではない。ではなぜ同じ民族ととらえてしまうのかを、本書はモース、高群逸枝、柳田国男、津田左右吉など、明治以来のさまざま

つくられた幻想

まな知識人の言説を検証しながら考察する。すると植民地を有していた大戦前は多くが日本人を単一民族とは思っていないかったことが分かる。つまり単一民族とは、戦後の文化や政治や国民意識がつくってきた神話であることを本書は証明した。民族主義やナショナリズムの問題を伏在させながら、日本の過去の姿を精査し、現在にも多くの問題を投げかけた若い思想史家のデビュー作。一九九五年刊、現在十八刷。(新曜社・二九九〇円)

『単一民族神話の起源』

小島英二著